

学位授与方針
教育課程の編成・実施方針
入学者受入方針

(学士課程)

令和2年4月

東京大学

目 次

東京大学学士課程	2
高等学校段階までの学習で身につけてほしいこと	4
前期課程	
教養学部	6
後期課程	
法学部	7
医学部	8
工学部	9
文学部	10
理学部	11
農学部	12
経済学部	13
教養学部	14
教育学部	15
薬学部	16

東京大学学士課程

東京大学憲章（抜粋）

（教育の目標）

東京大学は、東京大学で学ぶに相応しい資質を有するすべての者に門戸を開き、広い視野を有するとともに高度の専門的知識と理解力、洞察力、実践力、想像力を兼ね備え、かつ、国際性と開拓者の精神をもった、各分野の指導的人格を養成する。このために東京大学は、学生の個性と学習する権利を尊重しつつ、世界最高水準の教育を追求する。

学位授与方針

東京大学は、学術研究及び高等教育の使命を自覚し、その達成に向けて、東京大学によって立つべき理念と目標を東京大学憲章として定め、国内外の様々な分野で指導的役割を果たしうる「世界的視野をもった市民的エリート」を育成することが、社会から託された自らの使命であると考えています。このような使命のもとで、東京大学が目指すのは、「広い視野を有するとともに高度の専門的知識と理解力、洞察力、実践力、想像力を兼ね備え、かつ、国際性と開拓者の精神をもった、各分野の指導的人格」（東京大学憲章）の養成です。この東京大学憲章に定める人材を養成するため、次に掲げる目標を達成した学生に学士の学位を授与します。

- リベラル・アーツの理念に基づいた幅広い教養教育と多様な専門教育によって揺るぎない基礎学力を身につけ、人類の発展に資する先端的知への好奇心を有している。
- 社会の一員として、常に公共的な責任感と巨視的な判断力を備え、指導的役割を果たす自覚を持って、社会の発展のために主体的に行動できる。
- 多様化する社会において、異なる文化や価値観を理解・尊重しつつ自己を相対的に捉え、文化的・社会的背景の異なる他者との確かなコミュニケーションを図ることができる。
- 現実を批判的に捉える視点を持ち、絶えず課題を発見し主体的に解決に取り組む積極的な姿勢を身につけている。

教育課程の編成・実施方針

東京大学の学士課程では、前期課程におけるリベラル・アーツの理念に基づいた幅広い教養教育を基礎とし、これを後期課程における専門教育と有機的に結合する柔軟な学部教育を行います。学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

- すべての学生は、教養学部前期課程の6科類のいずれかに入学して2年間の学修を行う。前期課程においては、基礎科目、展開科目、総合科目、主題科目の区分を設け、教養教育から可能な限り多くを学び、広範で深い教養と豊かな人間性を培い、さらに後期課程の専門教育に必要な基礎的な知識と方法を学ぶことができる体系的なカリキュラムを提供する。
- 前期課程においては、学生が個々の授業において十分な関連学修時間が確保できるように、履修登録できる単位数の上限を定める。
- 後期課程においては、それぞれの専門分野の基盤的知識を修得することによって社会で活動する堅固な基盤を養う。加えて、大学院で行われる高度な専門教育と学術研究へとつながるカリキュラムを提供する。
- 自らの専門を相対化しつつ総合的な知を身につけるために、後期課程においてもリベラル・アーツの理念に基づいた教養教育のカリキュラムを提供する。
- 前期課程及び後期課程を通じて、学生の主体的な学びを促すカリキュラムを提供する。
- 学修成果の評価にあたっては、予め明示した成績評価基準に基づき、厳格な評価を行い、その結果の活用を通じて、教育方法の改善につなげる。

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

東京大学の使命と教育理念

1877年に創立された我が国最初の国立大学である東京大学は、国内外の様々な分野で指導的役割を果たしうる「世界的視野をもった市民的エリート」（東京大学憲章）を育成することが、社会から負託された自らの使命であると考えています。このような使命のもとで本学が目指すのは、自国の歴史や文化に深い理解を示すとともに、国際的な広い視野を持ち、高度な専門知識を基盤に、問題を発見し、解決する意欲と能力を備え、市民としての公共的な責任を引き受けながら、強靱な開拓者精神を発揮して、自ら考え、行動できる人材の育成です。

そのため、東京大学に入学する学生は、健全な倫理観と責任感、主体性と行動力を持っていることが期待され、前期課程における教養教育（リベラル・アーツ教育）から可能な限り多くを学び、広範で深い教養とさらに豊かな人間性を培うことが要求されます。この教養教育において、どの専門分野でも必要とされる基礎的な知識と学術的な方法が身につくとともに、自分の進むべき専門分野が何であるのかを見極める力が養われるはずで、本学のカリキュラムは、このように幅広く分厚い教養教育を基盤とし、その基盤と有機的に結びついた各学部・学科での多様な専門教育へと展開されており、そのいずれもが大学院や研究所などで行われている世界最先端の研究へとつながっています。

期待する学生像

東京大学は、このような教育理念に共鳴し、強い意欲を持って学ぼうとする志の高い皆さんを、日本のみならず世界の各地から積極的に受け入れたいと考えています。東京大学が求めているのは、本学の教育研究環境を積極的に最大限活用して、自ら主体的に学び、各分野で創造的役割を果たす人間へと成長していこうとする意志を持った学生です。何よりもまず大切なのは、上に述べたような本学の使命や教育理念への共感と、本学における学びに対する旺盛な興味や関心、そして、その学びを通じた人間的成長への強い意欲です。そうした意味で、入学試験の得点だけを意識した、視野の狭い受験勉強のみに意を注ぐ人よりも、学校の授業の内外で、自らの興味・関心を生かして幅広く学び、その過程で見出されるに違いない諸問題を関連づける広い視野、あるいは自らの問題意識を掘り下げて追究するための深い洞察力を真剣に獲得しようとする人を東京大学は歓迎します。

入学試験の基本方針

したがって、東京大学の入試問題は、どの問題であれ、高等学校できちんと学び、身につけた力をもってすれば、決してハードルの高いものではありません。期待する学生を選抜するために実施される本学の学部入学試験は、以下の三つの基本方針に支えられています。

第一に、試験問題の内容は、高等学校教育段階において達成を目指すものと軌を一にしています。

第二に、入学後の教養教育に十分に対応できる資質として、文系・理系にとらわれず幅広く学習し、国際的な広い視野と外国語によるコミュニケーション能力を備えていることを重視します。そのため、文科各系の受験者にも理系の基礎知識や能力を求め、理科各系の受験者にも文系の基礎知識や能力を求めるほか、いずれの科系の受験者についても、外国語の基礎的な能力を要求します。

第三に、知識を詰めこむことよりも、持っている知識を関連づけて解を導く能力の高さを重視します。

東京大学は、志望する皆さんが以上のことを念頭に、高等学校までの教育からできるだけ多くのことを、できるだけ深く学ぶよう期待します。

推薦入試の基本方針

東京大学の推薦入試は、学部学生の多様性を促進し、それによって学部教育の更なる活性化を図ることに主眼を置いて実施します。実施に当たっては、日本の中等教育における先進的取組を積極的に評価し、高等学校等の生徒の潜在的な多様性を掘り起こすという観点から、日本の高等学校等との連携を重視します。推薦入試による選抜に当たっては、本学の総合的な教育課程に適応しうる学力を有しつつ、本学で教育・研究が行われている特定の分野や活動に関する卓越した能力、若しくは極めて強い関心や学ぶ意欲を持つ志願者を求めます。東京大学は、推薦入試で入学した学生が、東京大学、ひいてはグローバル社会の活力の源として活躍することを期待しています。

高等学校段階までの学習で身につけてほしいこと

東京大学を志望する皆さんには、アドミッション・ポリシーにも明示されているように、本学に入学するまでに、できるだけ多くのことを、できるだけ深く学んでほしいと思います。以下、本学を受験しようと考えている皆さんに向けて、高等学校段階までの学習において、特に留意してほしいことを教科別に掲げます。

国語

国語の入試問題は、「自国の歴史や文化に深い理解を示す」人材の育成という東京大学の教育理念に基づいて、高等学校までに培った国語の総合力を測ることを目的とし、文系・理系を問わず、現代文・古文・漢文という三分野すべてから出題されます。本学の教育・研究のすべてにわたって国語の能力が基盤となっていることは言をまちませんが、特に古典を必須としているのは、日本文化の歴史的形成への自覚を促し、真の教養を涵養するには古典が不可欠であると考えからです。このような観点から、問題文は論旨明快でありつつ、滋味深い、品格ある文章を厳選しています。学生が高等学校までの学習によって習得したものを基盤にしつつ、それに留まらず、自己の体験総体を媒介に考えることを求めているからです。本学に入学しようとする皆さんは、総合的な国語力を養うよう心掛けてください。

総合的な国語力の中心となるのは

- 1) 文章を筋道立てて読みとる読解力
- 2) それを正しく明確な日本語によって表す表現力

の二つであり、出題に当たっては、基本的な知識の習得は要求するものの、それは高等学校までの教育課程の範囲を出るものではなく、むしろ、それ以上に、自らの体験に基づいた主体的な国語の運用能力を重視します。

そのため、設問への解答は原則としてすべて記述式となっています。さらに、ある程度の長文によってまとめる能力を問う問題を必ず設けているのも、選択式の設問では測りがたい、国語による豊かな表現力を備えていることを期待するためです。

地理歴史・公民

過去と現在、世界の各地域など、人間社会で一見バラバラに起こっている事象は相互に関連しています。それらについて一定の知識を身につけることはもちろん必要ですが、東京大学は細部にわたる知識の量ではなく、知識を関連づけて分析、思考する能力を重視します。そうした能動的で創造的な思考力は、暗記を目的とした勉強ではなく、新聞やテレビなどで報じられる現代の事象への関心や、読書によって養われる社会や歴史に対する想像力を通じて形成されます。そのため本学を志望する皆さんには以下の点を期待します。それに留意して学習に励んでください。

1) 総合的な知識

本学は、狭い特定分野の知識や能力（いわゆる「一芸」）ではなく、幅広く、総合的な知識を求めます。それが複雑な社会現象を理解する上での前提となるからであり、狭い視野から導き出される結論は独善的なものになりがちだからです。地理歴史の入試問題においても、幅広い分野からバランスよく出題するようにしています。ただし、入学試験の解答に必要なとされる知識の程度は、現行の高等学校学習指導要領を超えるものではありません。

2) 知識を関連づける分析的思考力

地理歴史・公民の各科目では、便宜上の理由から、様々な知識が細切れに習得されることになりがちですが、そのような各分野の知識を関連づけて理解する能力が求められます。そのためには、入学試験で選択する科目だけに偏ることなく、地理歴史・公民の各科目を高等学校段階で広く学習し、複雑な社会現象を捉える眼を養うことが期待されます。入試問題において、地図、図表などの資料を用いた問題の出題されることがあるのも、単なる知識の量ではなく分析的思考力を測るためです。

3) 論理的表現力

本学は、思考を論理的に表現する能力を重視します。入試問題においても、分析的思考力と論理的表現力の双方を的確に測る目的で、文章で解答する論述式の問題が出題されます。

数学

数学は、自然科学の基底的一分野として、人間文化の様々な領域で活用される学問であり、科学技術の発展に貢献するだけでなく、社会事象を客観的に表現し予測するための手段ともなっています。そのため、東京大学の学部前期課程（1、2年生）では、理科各類の全学生が解析・代数を必修科目として履修し、文科各類の学生も高度な数学の授業科目を履修できるカリキュラムが用意されています。

本学に入学しようとする皆さんは、入学前に、高等学校学習指導要領に基づく基本的な数学の知識と技法を習得しておくことはもちろんのことですが、将来、数学を十分に活用できる能力を身につけるために、次に述べるような総合的な数学力を養うための学習を心掛けてください。

1) 数学的に思考する力

様々な問題を数学で扱うには、問題の本質を数学的な考え方で把握・整理し、それらを数学の概念を用いて定式化する力が必要となります。このような「数学的に問題を捉える能力」は、単に定理・公式について多くの知識を持っていることや、それを用いて問題を解く技法に習熟していることとは違います。そこで求められている力は、目の前の問題から見かけ上の枝葉を取り払って数理としての本質を抽出する力、すなわち数学的な読解力です。本学の入学試験においては、高等学校学習指導要領の範囲を超えた数学の知識や技術が要求されることはありません。そのような知識・技術よりも、「数学的に考える」ことに重点が置かれています。

- 2) 数学的に表現する力
 数学的に問題を解くことは、単に数式を用い、計算をして解答にたどり着くことではありません。どのような考え方に沿って問題を解決したかを、数学的に正しい表現を用いて論理的に説明することです。入学試験においても、自分の考えた道筋を他者が明確に理解できるように「数学的に表現する力」が重要視されます。普段の学習では、解答を導くだけでなく、解答に至る道筋を論理的かつ簡潔に表現する訓練を十分に積んでください。
- 3) 総合的な数学力
 数学を用いて様々な課題を解決するためには、数学を「言葉」や「道具」として自在に活用できる能力が要求されますが、同時に、幅広い分野の知識・技術を統合して「総合的に問題を捉える力」が不可欠です。入学試験では、数学的な思考力・表現力・総合力がバランスよく身につけているかどうかを判断します。

理科

理科は、文系・理系を問わず、社会における自然科学、先端技術が関連する様々な分野において、問題の本質を見つけ、課題解決に導くための考え方の基礎となる教科です。このために、東京大学の学部前期課程(1、2年生)では、理科各類の全学生が物理・化学・生物を必修科目として履修し、文科各類の学生も高度な自然科学の授業科目を履修できるカリキュラムが組まれています。本学を受験する皆さんには、高等学校で理科の各科目を広く勉強し、理科に関する基礎的な力を身につけることを期待しています。このために、入学試験では以下の能力を判断するための問題が出題されますので、そのような力を養成する学習を目指してください。

- 1) 自然現象の本質を見抜く能力
 自然現象を深く観察し、実物に即して現象の本質を見抜く発見力・洞察力を重視します。
- 2) 原理に基づいて論理的にかつ柔軟に思考する能力
 自然現象に関する知識の正確さとともに、自然現象を科学的に分析し、深く掘り下げ、論理的に思考する能力を重視します。また、単なる計算力を問うのではなく、自然現象を定量的に考察する能力も重視します。求められる自然現象に関する知識は、現行の高等学校学習指導要領の範囲を逸脱することはありませんが、これらを十分に理解・消化し、論理的に組み合わせ活用する能力が求められます。
- 3) 自然現象の総合的理解力と表現力
 自然現象は複合的な現象なので、一つの分野の特定の知識・技術のみではなく、幅広い分野の知識・技術を統合し総合的に理解する能力を重視します。また、得られた結論を、客観的に説明する科学的な表現力を重視します。

外国語

人間は「ことば」なしでは生きていけません。誰もが「ことば」で考え、相手の感情を知り、自分の思考を相手に伝えます。「世界的視野をもった市民的エリート」を育てることを使命とする東京大学は、教養教育(リベラル・アーツ教育)を重視しており、そのため、入試問題においては、多くの外国語による受験に門戸を開いています。具体的には、英語のほか、ドイツ語、フランス語、中国語等による受験が可能です。共通して求める能力をまとめるとすれば、「外国語による理解力と表現力」ということに尽きます。

いずれの外国語についても、本学で学ぼうとする皆さんは、高等学校までの教育課程の範囲内で、それぞれの言語によるコミュニケーションに必要とされる理解力と表現力を備えていることが期待されますので、その言語についての正確な知識に裏打ちされた論理的な思考力の養成に努めてください。外国語文の和訳、和文の外国語訳、文法的知識を問う問題は言うまでもなく、ときにその言語の背景にある社会・文化への理解を要求する問題が出題されるのも、そうした努力の成果を見るためです。

以下、外国語として選択されることの最も多い英語について若干付言します。現代社会において、市民的エリートとしての責任を果たそうとすれば、英語力が重要な要素であることは明らかでしょう。ここで求められる英語力は、具体的には3点にまとめられます。

- 1) 英語による受信力
 知的内容のあるコミュニケーションが交わされる場において、相手側の英語による発信を正しく理解する能力が必要不可欠であることは言うまでもないでしょう。読解・聴解を含めた受信力を問う問題が出題されるのはそのためです。
- 2) 英語による発信力
 同様の場において、自分の述べたいことを正しく英語で表現できる発信力が不可欠なこともまた明らかです。英作文の問題が出されるのはこのためであり、現在、「話す」能力の試験を課すことができないのはもっぱら技術的な理由によります。
- 3) 批判的な思考力
 上記2点の能力を発揮し、健全なコミュニケーションを達成するためには、例えば常に何が「正しい」のかを問うような想像力豊かな批判的視点がなければなりません。それがなければコミュニケーションの場には誤解と曲解が渦巻くこととなります。
- こうした英語力を身につけるためには、発音・語彙・文法構造などの細部の把握と、論理構成の理解や文化的背景についての知識に裏打ちされた大局的な把握との両面での訓練が必要であり、教養教育ではそうした英語教育を目指しています。そのため、本学を志望する皆さんには、高等学校学習指導要領の範囲内で、そうした英語カリキュラムに対応できる能力を身につけるように特に意識して、学習を進めてほしいと思います。

前期課程

教養学部

教育研究上の目的

特定の専門分野に偏らない総合的な視野を獲得させるリベラル・アーツ教育を行い、同時に専門課程に進むために必要な知識や知的技能を身につけ、専門的なものの見方や考え方の基本を学びとらせることを目的とする。

教育課程の編成・実施方針

東京大学教養学部前期課程は、以下の方針に基づき教育課程を体系的に編成・実施します。

- 全学生を対象とした教養学部前期課程は、東京大学における学士課程一貫教育の前半部分に位置付けられるものです。ここでは、基礎科目、展開科目、総合科目、主題科目の科目区分を設け、科類ごとに学生が取得すべき必要最低単位数を定めています。
- 基礎科目は、学士課程における学習の揺るぎない基盤となりうる基礎知識・技能、および主体的・自発的に思考する姿勢を学生が身につけることを目的とする科目です。それは、全科類共通の必修科目である「外国語（既修／初修）」「情報」「身体運動・健康科学実習」「初年次ゼミナール（文科／理科）」と、科類毎に必修・選択必修という形で履修を求める「社会科学」「人文科学」「自然科学」から構成されています。「初年次ゼミナール（文科／理科）」は、少人数のチュートリアル授業により、基礎となる学術的スキルを修得するとともに、自ら問題を設定し、その解決に取り組む姿勢を養うことを目的とする科目です。
- 基礎科目においては、習熟度別の授業が広範に導入され、個々の学生の適性を見出し、意欲を引き出し、能力を伸ばす工夫がなされています。クラス分けにあたっては、授業の性格に応じて、学力・意欲、入試における科目選択、指定科目の履修等の基準が用いられます。
- 展開科目は、「社会科学ゼミナール」「人文科学ゼミナール」「自然科学ゼミナール」「文理融合ゼミナール」から構成される任意選択科目で、各ゼミナールは、さらに学問領域や学術的方法に従って区分されています。前期課程における基礎科目と、後期課程における専門科目との結節点に位置付けられるもので、個々の学生が、主体的に選択した分野に固有の思考様式・分析手法を、実践を通じて体得する少人数授業です。
- 総合科目は、広い視野から学生の総合的な判断力や柔軟な思考力を培う、多様性と体系性を備えた科目で、7つの系列（L. 言語・コミュニケーション、A. 思想・芸術、B. 国際・地域、C. 社会・制度、D. 人間・環境、E. 物質・生命、F. 数理・情報）、さらに大科目、科目、個々の授業へと、幾重にも階層的に分類されて開講されます。学生は、特定の学問領域に偏ることなく社会科学・人文科学・自然科学を幅広く学びます。
- 主題科目は、文字通り特定の主題に焦点を当てて掘り下げた考察を行う科目で、「学術フロンティア講義」「全学自由研究ゼミナール」「全学体験ゼミナール」「国際研修」から構成され、学生に、研究の最先端に触れる、あるいは時事的なトピックへの理解を深める機会を提供するものです。なお、学生が海外の大学等において取得した単位等を、「国際研修」の単位として認定する制度が設けられています。
- 言語の壁を越えて自分の考えをグローバルに発信することを可能にする能動的な英語力を鍛えるために、英語を母語とする教員による少人数授業として、FLOW（Fluency-Oriented Workshop）、文科生対象のALESA（Active Learning of English for Students of the Arts）、理科生対象のALES S（Active Learning of English for Science Students）が設けられています。
- 東京大学の「グローバルリーダー育成プログラム」の一環として、教養学部前期課程では、一定水準の英語力を有すると認められる学生を対象に、日本語と英語に加えて第三の言語の優れた運用能力を持つ人材を育成するために、トライリンガル・プログラムを導入しています。
- 文科一類の学生は法と政治を中心に、文科二類の学生は経済を中心に、社会科学全般の基礎を学ぶとともに、関連する人文科学、自然科学の諸分野にわたって理解を深めます。文科三類の学生は言語、思想、歴史を中心に、人文科学全般の基礎を学ぶとともに、関連する社会科学、自然科学の諸分野にわたって理解を深めます。理科一類の学生は数学、物理学、化学を中心に、理科二類・三類の学生は生物学、化学、物理学を中心に、生命科学・物質科学・数理科学の基礎を学びます。
- 日本語以外の言語で初等中等教育を一定期間以上受けた学生を対象として、英語で学位が取得できる特別なプログラム、PEAK（Programs in English at Komaba）が設けられています。PEAK生対象の授業の一部は他の学生にも開かれています。
- 前期課程においては、個々の授業について学生が関連学習の時間を十分に確保できるように、履修登録できる単位数に上限を設けています。
- 2年次の6・7月の授業期間には、原則として、当該期間以外に履修できないような必修科目を配置しません。この期間を積極的に活用して国内外のサマープログラムに参加するなど、多様な活動への挑戦に道が開かれています。
- 前期課程における成績評価については、通常の科目では優以上の評価を原則として受験者の三割程度としています。また、科目によっては、共通教材の開発、統一試験の実施、シラバスの共有等を通じて、教育内容を標準化したうえで成績評価を厳正化することに取り組んでいます。
- このように前期課程のカリキュラムは、科目群全体として豊かな教養を身につけるのに十分な広がりを持つと同時に、後期課程の専門科目に接続する奥行きを備えた科目も含んでいます。これは、独立した思考の主体たる学生を育成するカリキュラムであるとともに、進学希望者を受け入れるにあたって後期課程諸学部が主体的に独自の基準を設計できるようなカリキュラムでもあります。
- 以上の教育課程の編成・実施方針を十全に実現するため、科目によっては諸学部および附置研究所・センター等の協力を得て、全学体制で運営しています。

後期課程

法学部

教育研究上の目的

法学と政治学を中核とした教育研究を通じて、幅広い視野をそなえ、法的思考と政治学的識見の基礎を身に付けた人材を養成することを目的とする。

学位授与方針

東京大学法学部は、学部の教育研究上の目的に定める人材を養成するため、次に掲げる目標を達成した学生に学士（法学）の学位を授与します。

- 深い教養と広い視野を持ち、法的思考と政治学的識見の基礎を身につけていること。
- 法学・政治学について体系的な知識を身につけていること。
- 法学・政治学の領域に関し、自ら問題を発見し、それを言語的に表現し、さらに論理性と説得力をもった議論を通じてその解決に寄与することができること。

教育課程の編成・実施方針

東京大学法学部は、学部の学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を体系的に編成・実施します。

- 法学・政治学に関する基礎的な科目から応用的な科目に至るすべての授業科目について、常に先端的研究を反映した最高水準の授業を提供する。
- 学生が、前期課程における学修の基盤の上に有機的に構築された履修計画を立てることができるよう、各授業科目間の相互関連に配慮しつつ体系的に授業科目を配置する。
- 外国語を用いた授業又は外国語の教材を使用する授業を充実させるとともに、学生の国際的流動性を高める等、教育の国際化を進める。
- 学生の自主的な学修を促し、その成果を発表し、議論する能力を高めるため、多様な演習を展開する。
- 透明で厳格な成績評価を行うとともに、学生の意見をも参照しつつ、不断に教育の内容や方法を検証し、教育の質の向上を図る。

後期課程

医学部

教育研究上の目的

生命科学・医学・医療の分野の発展に寄与し、国際的指導者になる人材を育成することにある。すなわち、これらの分野における問題の的確な把握と解決のために創造的研究を遂行し、臨床においては、その成果に基づいた全人的医療を実践しうる能力の涵養を目指す。

学位授与方針

(医学科)

東京大学医学部医学科は、学部の教育研究上の目的に定める人材を養成するため、次に掲げる目標を達成した学生に学士の学位を授与する。

- 基盤となる教育成果として、医学知識と臨床技能を修得し、プロフェッショナリズムとコミュニケーション能力を培い、社会的視点をもつ。
- 発展的な教育成果として創造的思考を行い、全人的医療をめざし、チームリーダーならびに国際的指導者としての素養を涵養し、未来への志をもつ。

(健康総合科学科)

東京大学医学部健康総合科学科は、学部の教育研究上の目的に定める人材を養成するため、次に掲げる目標を達成した学生に学士の学位を授与する。

- 健康と病気、保健と医療の分野におけるジェネラリスト、すなわち健康に関連する学問領域を広く俯瞰し、統合的に理解し活用できる人材としての素養を身につける。
- 健康科学の研究者および実践者となるため、科学者としての素養、国際的・学際的視点、専門家としての見識、新たな問題に取り組む応用力を備える。
- 最先端の生命科学・情報科学・社会科学を踏まえた広い視野から「健康」の本質を理解し、これを多様な学術研究や実践現場に応用するための基盤を身につける。
- 看護科学専修においては、日本・世界の看護学研究をリードし時代の要請に応じた看護学の発展に貢献できる研究者および実践者となるための、基礎的な見識および看護実践力を身につける。

教育課程の編成・実施方針

(医学科)

東京大学医学部医学科は、自らが定める教育理念のもと、学部の学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、教育課程を体系的に編成・実施する。

- 学部後期課程前半では、医学・医療に必要な基礎的学問領域について、講義、実習を組合せた授業を開講する。
- 学部後期課程後半では、東京大学医学部附属病院及び外部病院等と連携し、実践を交えた参加型臨床実習の指導を行う。また、総合的視点を養うため、臨床系各科による統合講義を開講する。

(健康総合科学科)

東京大学医学部健康総合科学科は、学修における達成度を評価するための基準をシラバスに明示する。教育課程の編成・実施においては、以下の点を重視する。

- 生命科学・情報科学・社会科学の視点に立った健康にかかわる科目を学科全体の必修として課すとともに、専修制を導入し個々の学生の特徴を最大限に引き出す。
- 演習型・問題解決型の少人数の双方向型講義、進学生のバックグラウンドの多様さに対応するための習熟度別授業を導入する。
- 国際保健学など国際的視野を養う科目の設置、卒業研究・大学院進路の多様化などにより、学生の視野・選択肢を拡げる。
- 看護科学専修では、保健師・助産師教育を修士課程に移行し、過密カリキュラムを解消し、参加型講義や演習の充実、学際的・国際的な視野を強化した良質な学習を確保する。

後期課程

工学部

教育研究上の目的

豊かな教養、国際性、科学技術に対する体系的な知識を身につけ、研究、開発、設計、生産、計画、経営、政策提案等において、工学的手法を活用して人類社会の持続と発展に貢献できる指導的人材を養成することを目的とする。

学位授与方針

東京大学工学部は、学部教育研究上の目的に定める人材を養成するために、次に掲げる目標を達成した学生に学士の学位を授与する。

- 科学技術に対する幅広い豊かな教養と専門分野における体系的な知識を有していること。
- 工学的、論理的な思考力を有していること。
- 文化やバックグラウンドが異なるコミュニティとも交流・情報交換できる国際性を有していること。
- 科学技術に対する高い倫理観や、社会に積極的に貢献する意志を有していること。
- 人類の持続的発展に貢献するために、社会のリーダーとして活躍する素養や開拓者精神を有していること。
- 所定の期間在学して、所定の単位を修得していること。

教育課程の編成・実施方針

東京大学工学部は、学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を体系的に編成・実施する。

- 幅広い教養教育を基盤に、工学に必要な専門教育を実施する。
- 卒業研究において、工学的思考力を基盤とする問題解決能力を養う。
- 実験・演習を通して、知識の実践、実際的な社会における活用を経験させる。
- 活動を通して、リーダーシップ、コミュニケーション能力を養う。
- 工学倫理に関する教育を行う。
- 成績評価は、試験やレポートなどにより適正に行う。

後期課程

文学部

教育研究上の目的

人間の思想、歴史、言語、社会に対する真の理解を目指して、文献読解、資料分析、実験・調査といった基本的な方法論を身につけ、広く深い素養を獲得することを通じて、人類文化の継承と発展に寄与する人材を育成することを教育研究の目的とする。

学位授与方針

東京大学文学部は、学部の「教育研究上の目的」に定める人材を養成するため、次に掲げる目標を達成した学生に学士の学位を授与します。

- 人間の思想、歴史、言語、社会について広く学修し、それらについての深い素養を獲得した上で、自己を相対化し多様性を理解する能力を修得するとともに、自他を問わず、個を尊重する視点を身につけていること。
- 同時に、身につけた素養と視点を基盤として、文献読解、資料分析、実験・調査といった実証的研究手法に依りながら、特定の課題について自らの考察と見解を論理的に提示する論考をまとめる訓練を通じて、人類文化の継承と発展、さらにその創造に寄与する能力を身につけていること。

教育課程の編成・実施方針

東京大学文学部は、学士号授与の方針に示された目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を体系的に編成・実施します。学生の個性と多様性を尊重することを基本としつつ、広範かつ体系的な学修の機会と、ひとりひとりの特性に沿ったきめ細かい指導とが与えられます。具体的には、①基本的な知識を体系的に獲得するための講義、②基礎的な研究手法を獲得するための実習、③資料・データを読み解きつつ学生と教員との議論から新しい発見や理解に導く演習、④設定した課題を実証的に解決する能力を身につける実践的訓練の場としての卒業論文指導など、様々な形態の授業が提供されます。さらに、⑤自己を相対化し人間の多様性を理解するための専門分野横断的講義を通じて、深い専門的な知識と幅広い学際的な視野の双方を、均整のとれた形で獲得するための機会が与えられます。学修成果の評価に当っては公正を旨とし、学生自らの課題発見と教育課程の改善に繋がります。

後期課程

理学部

教育研究上の目的

自然界の仕組みを体系的に理解して、自然科学の諸分野で先端的な研究を行う人材及び理学の素養の上に社会で創意ある活動を行う人材養成を目指し、学生自らが第一線の研究に触れる中から自然に問いかけ思索する能力を修得させることを目標とする。

学位授与方針

東京大学理学部では数学、情報科学、物理学、天文学、地球惑星物理学、地球惑星環境学、化学、生物化学、生物学、生物情報科学の10学科を置き、各学科では東京大学理学部憲章の定めに従って世界最高水準の教育を実施し、次に掲げる学修目標に到達し、所定の単位を修得した学生に学士（理学）の学位を授与する。

- 自然界の仕組みを体系的に理解するための確かな基礎学力をもつ。
- 自然界の仕組みに関心を持ち、その新しい理解のために思索する能力をもつ。
- 理学の素養のもと、社会の諸方面で創意ある活動を行う能力をもつ。
- 高い倫理観を持ち、責任をもって人類社会の持続的・平和的發展に寄与できる。

教育課程の編成・実施方針

東京大学理学部は上記学位授与方針を達成する学生を輩出するために、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施する。

- 各専門分野の基礎知識を体系的に身につけるとともに、狭い分野の知識に偏ることなく柔軟な発想ができる人材を育成する。
- 講義のみでなく、個別教育・少人数授業・セミナー等を通じて教員と主体的に議論・討論する機会を設けることで、学生に真に創造的な学問の方法論を学ばせる。
- 理学の教育・研究では理論と実験・観測・野外調査は不可分である。後者を通じて学生が自ら自然に問いかけ、思索することの重要性を学ばせる。
- 各学科の必修科目に加えて選択必修科目と選択科目を設け、学生が主体的に専門的知識を高める環境を整える。
- 他学科や他学部の授業科目も学修できる機会を設け、学生が各分野の専門的知識に加え、さまざまな自然科学の分野に関する幅広い知識をもつ環境を整える。
- 科学英語の授業を通じて、英語によるコミュニケーション能力と国際感覚を涵養する。
- 留学生を積極的に受け入れ、グローバルサイエンスコースのカリキュラムを充実させて、国際的視野と行動力をもった人材を育成する。
- 研究倫理の講義を通じて、高い研究倫理観をもつ人材を育成する。
- 成績評価は試験や、レポートの成績・出席状況などに基づき、各授業において学修達成度を適切に反映する基準を定め成績評価を行う。

後期課程

農学部

教育研究上の目的

農学を構成する応用諸科学に関する専門教育を段階的・体系的に行い、食料・資源・環境等の問題の解決に必要な高度の専門知識と幅広い視野を有し、社会・文化・産業活動を通じて地球社会の要請に応えることのできる洞察力・実践力・指導力を備えた人材を育成することを目的とする。

学位授与方針

東京大学農学部は、学部の教育研究上の目的に定める人材を養成するため、次に掲げる目的を達成し、所定の単位を修得した応用生命科学課程ならびに環境資源課程の学生に学士（農学）の学位を、また獣医学課程の学生に学士（獣医学）の学位をそれぞれ授与する。

- 農学に係る高度な専門知識と幅広い視野を基盤として、高い倫理と責任をもって社会の発展に学士として大きく寄与できる能力を有する。
- 食料・資源環境等に関する多様な課題を自ら洞察し、その解決に向けて社会の要請に応えることのできる実践力ならびに指導力を身につけている。
- 農学および関連分野において国際的な素養を身につけている。

教育課程の編成・実施方針

東京大学農学部は、学部の学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき課程制と専修制を組み合わせたカリキュラムを編成し、教育を実施する。

- 課程制では、農学に係る幅広い分野を俯瞰する能力を高めるための横断的な講義と各分野で共通となる基礎学を修得できるような講義を中心とした教育を体系的に提供する。
- 専修制では、各分野でのより専門的な講義、実験、実習、演習ならびに卒業論文を組み合わせることによって高度な専門知識に基づく実践力を身につける教育を体系的に提供する。
- 大学で学ぶ者としての倫理感と責任感を育む農学共通講義を提供する。
- 学修における達成度評価基準を明示するとともに、試験あるいは審査による成績評価については厳格に行う。

後期課程

経済学部

教育研究上の目的

経済学・経営学の多様な分野に関する理論的・実証的な学説・知識を体系的に講義するとともに、演習などで個別研究を行う機会を提供することによって、国際的な視野に立って実業界・官界・学界などで活躍する人材を養成することを目的とする。

学位授与方針

東京大学経済学部は、学部の教育研究上の目的に基づき、国際的な視野に立って実業界・官界・学界などで活躍する人材を養成するため、定められた期間在学し、経済学・経営学の多様な分野に関する体系的な講義や個別研究を行う演習を履修し、かつ、所定の単位を修得したことにより、実業界や官界の厳しい実践の現場あるいは意思決定の場においても、高度な学術研究の場においても、また大きな国際舞台でも身近な地域社会でも、臆することなく自分の理論と信条に従って意見を述べ、実行に移し、時に指導力を発揮し、もって社会に貢献できるような有為の人材と認められる者に学士（経済学）の学位を授与します。

教育課程の編成・実施方針

東京大学経済学部は、経済学や経営学の理論的、実践的かつ総合的な洞察力あるいは応用力を持ち、国際的な視野に立って国内外の実業界・官界・学界などで活躍できる人材を養成することを自らの使命と考えています。この目標を実現するために、経済学科、経営学科、金融学科の三学科を設置し、以下のような方針に従ってカリキュラムを編成しています。また、各授業においては、目標、計画、方法及び成績評価方法を明示するとともに、成績評価を厳格に行っています。

第1に、主に2年次においては、経済学・経営学の基礎的な知識を学習する機会をすべての学生が持てるように、経済学・経営学の専門科目1の講義科目（経済学・経営学の基礎知識に関する科目）を配当しています。

第2に、主に3年次と4年次においては、経済学科、経営学科、金融学科に分かれて、より専門的な知識を習得するために専門科目2（経済学の専門知識に関する科目）、専門科目3（経営学の専門知識に関する科目）、専門科目4（金融学の専門知識に関する科目）の講義科目を配当します。しかしここでも、学科間での履修の制約を極力減らすことにより、上記三学科の学生が経済学・経営学の幅広い知識を習得するようなカリキュラム編成となっています。

第3に、特定のテーマに興味を持つ学生が、より深い理論的・実践的な知識を獲得することができるように、主に3年次と4年次において、少人数の学生と特定の教員が長期的かつ双方向的にディスカッションを重ねる場として演習科目（ゼミナール）を用意しています。これは東京大学経済学部の一つの伝統ともいえます。また学生は、演習指導教員などからの指導を得つつ、特定のテーマに関する学部卒業論文を作成・提出し所定の単位を得ることができます。

第4に、特定の分野でより高度な理論的知識の習得に挑戦したい学生のために、経済学部は東京大学大学院経済学研究科の講義・演習科目の一部を、一定の条件を満たした学生に対して履修可能としています。また、これを用いて、大学院経済学研究科に入学した学生が経済学部時代に取得した大学院科目の単位を活用して1年間で修士号を取得することを可能とする「卓越プログラム」を大学院に設置し、意欲と能力のある学生が計5年間で修士号を取得できる道を開いています。

第5に、東京大学経済学部在学中に、海外の教育機関での履修経験や、企業等での実業経験を積めるように、海外の諸大学との交流協定などにもとづく交換留学制度やインターンシップの充実を図っています。

以上の方針に基づくカリキュラムを実行することによって、東京大学経済学部は、実業界や官界の厳しい実践の現場あるいは意思決定の場においても、高度な学術研究の場においても、また大きな国際舞台でも身近な地域社会でも、臆することなく自分の理論と信条に従って意見を述べ、実行に移し、時に指導力を発揮し、もって社会に貢献できるような有為の人材を育成していきたいと考えます。

後期課程

教養学部

教育研究上の目的

学際的・統合的な研究と教育の発展を前提として、専門分野の基礎学力の養成、専門分野間の横断や融合や統合を可能にする総合的理解力・判断力の養成、問題解決能力を備えた社会的リーダーシップをとりうる人材の養成、世界に開かれた視野と発信力の養成を教育研究上の目的とする。

学位授与方針

東京大学憲章に謳われた教育理念に基づき、教養学部後期課程では、文系の「教養学科」、理系の「統合自然科学科」、文系・理系の境界領域をカバーする「学際科学科」の3学科を設置し、高度な専門教育と幅広い教養教育を通じて既存の学問分野の境界にとらわれない知性を鍛え上げることを教育目標としています。この教育目標は、「学際性」「国際性」「先進性」という三つの理念に支えられています。グローバル化が急速に進行しつつある現代社会の諸問題は、一つの専門分野だけで解決できるものではありません。したがって、これら三つの教育理念の実現は、21世紀の国際社会におけるリーダー的人材、同時に真の教養人を育成することにつながります。本学部はこうした展望のもと、分野横断的視野が必要とされる現代社会の複雑な問題に対処する柔軟な思考力、知を統合し新たな領域を開拓できる高い専門性と幅広い教養、国際社会の要請に対応しうる先鋭な問題意識と問題解決能力の涵養を目標とします。

以上に述べた教育目標に基づき、教養学部後期課程では、以下にあげるような能力や学識の修得を学位授与の要件とし、所定の単位を修得し学位論文等の審査に合格した学生に学位を授与します。

- 専門分野における基本的な知識を系統立てて修得し、そこから得られた知見を研究成果としてまとめる方法論を身につけるとともに、新たな知見を生み出す創造性と探究心を具えていること。
- 専門分野間の横断・統合を可能にする総合的理解力・判断力と幅広い教養を身につけていること。
- 専門とする学問領域と現代社会の諸問題を有機的に関連付け、広く社会と世界に開かれた視野を身につけていること。
- 自ら問題を発見し解決する能動的姿勢を具え、将来、国際社会においてリーダーシップを発揮するうえで基礎となる行動力と発信能力を身につけていること。

教育課程の編成・実施方針

東京大学教養学部は、学部の学位授与方針で示した要件を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を体系的に編成・実施します。

- 教養学科では、超域文化科学、地域文化研究、総合社会科学の3つの分科を置き、人文・社会科学の専門的知識の系統的な修得と言語科目の履修を求めます。
- 学際科学科では、科学技術論、地理・空間、総合情報学、広域システムの4つのコースを置き、文系・理系の境界領域に位置する様々な対象を具体的に解析する科目の履修を求めます。
- 統合自然科学科では、数理自然科学、物質基礎科学、統合生命科学、認知行動科学、スポーツ科学の5つのコースを置き、複数の自然科学領域の科目の履修を求めます。
- 学生に自らの専門を相対化させ、学問領域と現代社会の諸問題を有機的に関連づける視野を獲得させるために、学科間で連携して学部内に先進的な共通科目を設置し、その一部を後期教養科目として全学に開きます。
- 学生が一つの学問領域にとどまらず、越境的・横断的な視座から先進的、学際的な研究課題に取り組めるように、多彩な副専攻と学科をまたぐ学融合プログラムの制度を設置します。
- 少人数の演習授業を体系的に開講することで、文献を厳密に解読し、データを精緻に解析できる能力を育成するとともに、プレゼンテーション能力と討議力を伸ばします。
- 専門性と国際性を備えた真の教養の修得と国際社会で積極的に発信できる視野と能力の養成のために、英語をはじめとする様々な言語による授業を展開します。また、英語だけで学位を取得できる文系・理系の2つのプログラムを設置して学部の国際化をはかるとともに、単位互換制度を提携している国外の大学への留学を積極的に推し進めます。
- 成績評価にあたっては、授業内容の理解度に加えて、授業における発表能力、課題の探究力、議論の展開力、正確な表現力等を達成度評価基準として試験を厳格に行います。

後期課程

教育学部

教育研究上の目的

広い視野と学識にもとづいて深く教育学を中心とする専門的知識と教養を形成し、教育を中心とする諸分野の指導的人材を養成することを目的とする。

学位授与方針

東京大学教育学部は、学部の教育研究上の目的に定める人材を養成するため、次に掲げる目標を達成した学生に学士（教育学）の学位を授与します。

- 前期課程における教養教育の基礎の上に、教育学を中心とする専門的知識と基礎的な研究能力を獲得している。
- 個々の専門領域をふまえた広い視野と知識を身につけている。
- 高い倫理意識と社会的責任感を持ち、指導的人材となる自覚をもっている。

教育課程の編成・実施方針

東京大学教育学部は、学部の学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を体系的に編成・実施します。

- 基礎的な研究能力を育てるとともに、研究倫理を身につけさせるために、研究指導および卒業論文を必修とする。
- 幅広い視野と知識を身につけさせるために、所属する専修以外の専修の科目の履修を必修とする。
- 教育学を専門とする学部にあふさわしい高度の教育を実現するために、教育課程、教育方法、成績・論文評価の方法等の改善に継続的に努力する。

後期課程

薬学部

教育研究上の目的

医薬の創製からその適正使用までを目標とし、生命に関わる物質及びその生体との相互作用を対象とする学問体系である。本学部は創薬科学及び基礎生命科学の発展に寄与する研究者、医療行政に貢献する人材、高度医療を担う薬剤師の養成を教育研究の目的とする。

学位授与方針

東京大学薬学部は、学部の教育研究上の目的に定める人材を養成するため、次に掲げる目標を達成し、所定の単位を修得した学生に4年制では学士（薬科学）、6年制では学士（薬学）を授与します。

- 創薬科学および基礎生命薬学分野の広範でかつ揺るぎない基礎学力と課題設定能力の修得
- 豊かな人間性と優れたリーダーシップ、人類全体の公共的な生命の維持や健康の増進に貢献するための責任感、使命感、倫理観の涵養
- 国際的に情報発信しコミュニケーションをはかるための語学力と国際感覚の修得
- 薬の専門家として医療現場や医療行政に貢献するための基礎的能力の修得（薬学科）

教育課程の編成・実施方針

東京大学薬学部は、学部の学位授与方針で示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を体系的に編成・実施します。

- 薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づき、有機化学、物理化学、生物化学を機軸とした講義と演習・実習を通して、創薬科学研究および基礎生命薬学研究の基礎を体系的かつ総合的に履修する。単位認定評価は、学力試験あるいはレポートによりおこなう。
- 薬科学科4年次または薬学科4－6年次に研究室配属となり、最先端の専門研究の現場において、課題設定能力、研究推進・課題解決能力、ディスカッション能力、社会性、コミュニケーション能力などを修得する。単位認定評価は、指導教員と複数の教員の合議によりおこなう。
- 薬学概論、薬学特別講義、創薬科学講義などを通じて、医薬に関する幅広い教養と倫理観を修得する。
- 病院実習や薬局実習を通じて、薬剤師として医療現場の要請に対応できる能力を修得する（薬学科）。